

三谷吾一 空・鳥・星



大樋長左衛門 壺・指頭絵「虎吼」

## ■ 第41回 日展 金沢展

- 百万石大名の装い 一甲冑・陣羽織一 前田育徳会尊經閣文庫分館
- 茶道美術名品展 一山川コレクションを中心に一 第2展示室
- 近世絵画名作選 第2展示室
- 松本 昇 遺作展 第4展示室

- 6月の主なコレクション展示
- 6月の企画展示室
- キッズプログラム参加者募集
- 鑑賞ファイル
- 6月の行事
- ミュージアムショップ通信
- 所蔵品紹介

# 第41回日展金沢展

平成22年5月22日(土)～6月13日(日)会期中無休

主催／北國新聞社、社団法人日展、日展石川会

後援／石川県、石川県教育委員会、金沢市、金沢市教育委員会、財団法人石川県芸術文化協会、財団法人石川県美術文化協会、NHK金沢放送局、北陸放送、テレビ金沢、エフエム石川、ラジオかなざわ、ラジオこまつ、ラジオななお、金沢ケーブルテレビネット



村田省蔵 稲架ならぶ

日展は長い伝統を持ち、所属作家層の厚さと優れた作品で知られ、日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の各分野を網羅し、わが国最大・最高水準の総合美術展として親しまれています。

日展は明治四十年の文部省第一回美術展として発足以来、その時々の改革を重ねながら、常にわが国美術界の中核として日本美術文化に貢献してきました。今回は、昭和四十四年の改組から数えて四十一回目の展覧会となります。

東京の本展出品作の中から、文化勲章受章者、文化功労者、日本芸術院会員、日展理事、評議員、会員などの秀作と、文部科学大臣賞、内閣総理大臣賞、日展会員賞（石川県関係では工芸美術で大樋年雄）、特選（石川県関係では日本画で百々俊雅、工芸美術で増田守世）などの受賞作品を基本作品とし、これに石川県内在住、出身作家の作品を合わせ、約四百点を展示します。

## ◆主な出品作家（五十音順・敬称略）

### 【日本画】

石川 義、岩倉 寿、大山忠作、鈴木竹柏、瀧川真人、土屋禮一、中路融人、中町 力

### 【洋画】

円地信二、庄司栄吉、中山忠彦、塗師祥一郎、平松 讓、藤森兼明、村田省蔵、森田 茂

### 【彫刻】

雨宮敬子、石田康夫、川崎普照、銭亀賢治、得能節朗、中村晋也、野畠耕之介、橋本堅太郎

### 【工芸美術】

井波唯志、今井政之、大樋長左衛門、奥田小由女、折原久左工門、河合誓徳、蓮田修吾郎、三谷吾一

### 【書】

今井凌雪、杉岡華邨、日比野光鳳、古谷蒼韻

## ◆作品解説日程

6/11	6/9	6/7	6/4	6/2	5/31	5/28	5/26	5/24	月日
金	水	月	金	水	月	金	水	月	曜日
日本画	彫刻	書	洋画	彫刻	彫刻	洋画	工芸	日本画	10:30 ～ 12:00
西出茂弘	東山瀬晋吾	干場昇龍	西房浩二 太佐寿一郎	中口一也	丹羽俊揮	佐々波啓子	木谷陽子	瀧川真人	13:00 ～ 14:30
谷村俊英	百貫俊夫	石崎誠和	大樋長左衛門	戸出克彦	原千紗	石田陽介	高廣幸悠	円地信二	
工芸	書	洋画	書	日本画	洋画	工芸	日本画	彫刻	14:30 ～ 16:00
大樋年雄	中川青玲	阿戸猛子	三藤観映	小中町力	江守マリ子	増田守世	佐藤俊介	得能節朗	

## ◆観覧料

小学生	中学生	一般	当日	団体
四〇〇円	七〇〇円	一〇〇〇円	八〇〇円	三〇〇円

※当館友の会会員は、会員証提示により

団体料金

## 【展覧会事務局】

〒九二〇一八五八八金沢市南町二番一号  
北國新聞社事業局内

第四十一回日展金沢展事務局

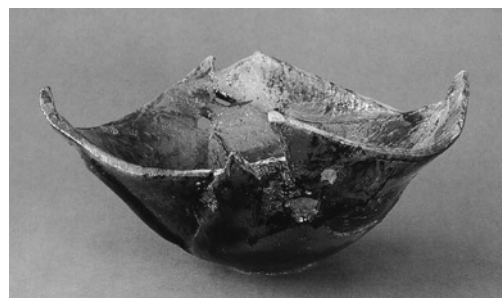
電話〇七六一二六〇一三五八一



百々俊雅 転た寝 (特選)



増田守世 SAIDO器 (特選)



大樋年雄 「琥珀雪山」 Amber White Mountain (会員賞)

# 茶道美術名品展

—山川コレクションを中心に—

5月20日(木)～6月13日(日)会期中無休

# 百万石大名の装い

—甲冑・陣羽織—

5月20日(木)～6月13日(日)

6月17日(木)～7月19日(月・祝)

当館の茶道美術は、山川美術財団の寄附作品を核としています。金沢の素封家山川家が三代にわたって収集伝世したものです。言うまでもなく、今日当館のコレクションの中で最も有名な野々村仁清の国宝「色絵雉香炉」は初代山川甚兵衛の収集品であり、三代庄太郎氏より昭和三十四年の旧美術館の開館時にご寄附いただいたものです。山川コレクションの大きな特色の一つは、香合の質の高さとその種類の豊富さにあります。県文「和蘭陀白雁香合」は、オランダのデルフト窯で作られ、江戸時代初頭にわが国に舶載しました。その

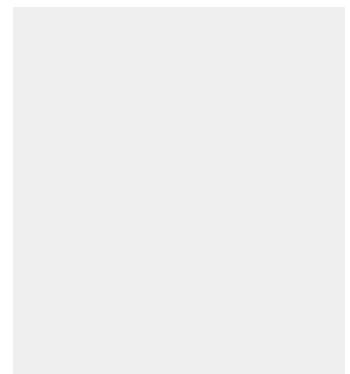
優雅で愛らしい趣が生まれ、茶人が香合に見立てたもので、古来より名高い名品です。また、仁清の「色絵花笠香合」は、仁清の技の冴えを示す薄作りのシャープな器体に、青、赤、緑の彩色と金彩を駆使した艶美ともいえる華やかな作品です。そのほか「黄瀬戸宝珠香合」、「志野桔梗香合」、「餡釉蟹五角香合」(初代大樋長左衛門作)等の和物「香合や」、「交趾金花鳥香合」、「宋胡録柿香合」、「古染付張甲牛香合」、「呉須染付松皮菱香合」等の唐物香合を展示するとともに、季節感を感じ取っていただける作品をあわせて展示します。



野々村仁清 「色絵花笠香合」

天正十一年(一五八三)六月、藩祖前田利家が金沢へ入城しました。その時期に合わせた恒例の甲冑と陣羽織の展示です。今回は前田家歴代藩主所用の甲冑・陣羽織のほか、鞍・鎧などの武具を「百万石大名の装い」と題して紹介します。古くより、戦にあつて身を守るべく様々な甲冑がつくられてきました。日本的な甲冑が生まれたのは平安時代で、源平の争う時代には大鎧とよばれる弓矢に対応した鎧が主流でした。戦国時代には槍が普及し、鉄砲がもたらされたこともあつて、その戦闘方法が密集隊形による徒歩集団戦へと変化することになりました。こうした戦いの中で、機敏な動きをするために軽い甲冑が求められ、

さらには攻撃する武器が多様化し、また強力化したことにもない、防具である甲冑の変化も促され、より頑丈なものが求められました。このような時代背景から、これまで作られてきた甲冑の様々な要素を組み合わせ、総合的に構成し生まれたのが当世具足です。「当世」とは今の世、「具足」とは、装具がすべて備わっていることをあらわし、防護機能が完備した現代風の鎧という意味で名付けられました。従来は大鎧、胴丸、腹巻などがそれだけで成り立っていたのに対して、当世具足は兜・面具・胴・袖と籠手・臈当・佩楯の七具すべて皆具している点



蕨手文陣羽織 五代前田綱紀所用



## 松本昇 遺作展

6月17日(木)~7月19日(月・祝)会期中無休

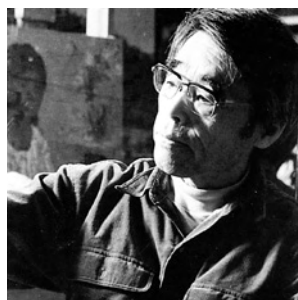
洋画家松本昇氏の没後一周年を機に、松本氏の五十年に及ぶ創作の歩みを、初期作品から平成二十一年の絶筆まで、油彩・素描など四十点余の代表作によりご覧いただきます。

松本氏は昭和六年小松市生まれ、二十七年に金沢美術工芸短期大学を卒業すると同時に教職に就かれ、以来三十五年間画業と教職を両立し、退職後は制作一途の道を邁進されました。

画業はほぼ四期に展開し、昭和二十年代後半の色彩を抑え、荒いタッチで描いた裸婦作品、四十年代の今江潟干拓地や草原、ゴビやアラブなどの砂漠を描いた風景画、五十年代・六十年代の小刻みなタッチで埋め尽くされる人物と虚実を交えて追求めた自画像や女性像、そして、晩年の、逞しい造形に華やいだ色彩を加味した円熟の裸婦と

人物画など、実に豊かな歩みを見せています。本展ではこれら各時期の代表作を網羅するとともに、氏愛用のイーゼルやパレットなどアトリエ内の遺品を配し、また生前のビデオを放映して、画家松本昇氏の全貌に迫ります。

**略歴**  
昭和六年小松市生まれ。二十七年金沢美術工芸短期大学油絵科卒業。高光一也に師事。同年第八回日展初入選。三十八年第四十九回光風会展初入選、以後光風会展に出品、四十四年ホルベイン賞、四十九年会員推挙。六十二年高光一也賞、平成四年中沢光弘賞受賞。六十三年、平成四年日展特選。十一年北國文化賞。日展会員。光風会理事。平成二十一年六月四日逝去。

モデル立つ 平成9年  
第29回日展 当館蔵

松本 昇氏

## 近世絵画名作選

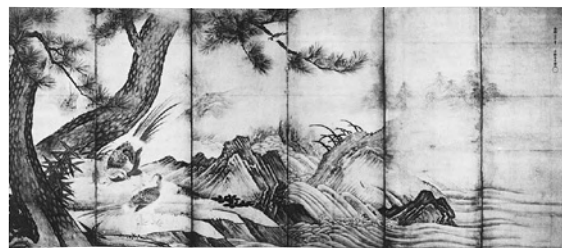
6月17日(木)~7月19日(月・祝)会期中無休

室町時代に書院造建築が発達したことを受けて、寺院や城郭において書院の空間的位置が格を決定するという考えが浸透していきました。そこで、書院を間仕切る重要な調度である襖や屏風に對して、それぞれの格にふさわしい画題や表現が求められました。それにともない、個人ではなく集団で効率よく発注者の意図を汲んで制作する狩野派などの流派が勢力を伸ばしました。やがて織田信長や豊臣秀吉ら天下を見据えた強烈な個性を持つ武將の出現により、彼らの思いを投影するかのような絢爛豪華な大画様式が誕生し、絵画表現も大きく変革しました。

しかし徳川氏による幕藩体制が強化されると、

桃山時代の開放的な様式は退潮し、特に公的な空間に描かれる画題や画風が定式化されてゆきます。幕府の御用絵師を輩出し、画壇の頂点に君臨した狩野派はそうした時流に巧みに乗り、江戸時代の絵画の在り方に大きな影響を与えました。その一方で、琳派など狩野派とは一線を画す新たな造形運動も生まれ、広く支持されてゆきました。

このように、室町時代末から桃山時代を経て江戸時代に至る時期は、日本絵画が歴史的に注目すべき展開を遂げました。今回の特集では展示件数は少ないながらも、特徴的な作品を選んでご紹介します。



県文 狩野永徳「松樹禽鳥図」左隻 桃山16世紀

## 第8・9展示室

第32回

# 伝統加賀友禅工芸展

6月17日(木)～6月22日(火)会期中無休

加賀友禅技術保存会は現在、七名の友禅作家が会員に認定されており、加賀友禅の正統な技術保存と後継者育成のため、石川県の無形文化財に指定を受けています。その主旨を推進するため、毎年開催しているのがこの展覧会です。今回の三十二回展より公募制を採用したことで、広く一般の方にも出品できるようになりました。加賀友禅における新しい感性と創造的作品の数々をご覧ください。

- ◇主 催／協同組合 加賀染振興協会
- ◇連絡先／金沢市小将町八十八
- ◇観覧料／四〇〇円(三〇〇円) 高校生以下無料
- ※( )内は二十名以上の団体料金

加賀友禅伝統産業会館内  
 伝統加賀友禅工芸展事務局  
 電話〇七六一二二四一五五一

石川県水墨画協会は、平成元年度発足、同二年に第一回公募展を開催し今日に至っております。公募展は石川県内の水墨画会諸会派及び一般個人を統合する当協会が行う展示会です。これは、過去の公募展の実績に照らし承認された会員の研鑽の場であると同時に、広く県内より一般公募し、厳正な審査の上入選作を展示し、水墨画の普及発展に寄与することとしております。従って各会派主宰の作品を始め、会員並びに一般公募の意欲的個性的な表現による、楽しみな協会展ならではの作品をご覧くださいと思います。

- ◇入場料無料
- ◇連絡先／金沢市富樫二二二二〇

事務局 森川節夫  
 電話〇七六一二四三二二二五

## 第7～9展示室

第21回

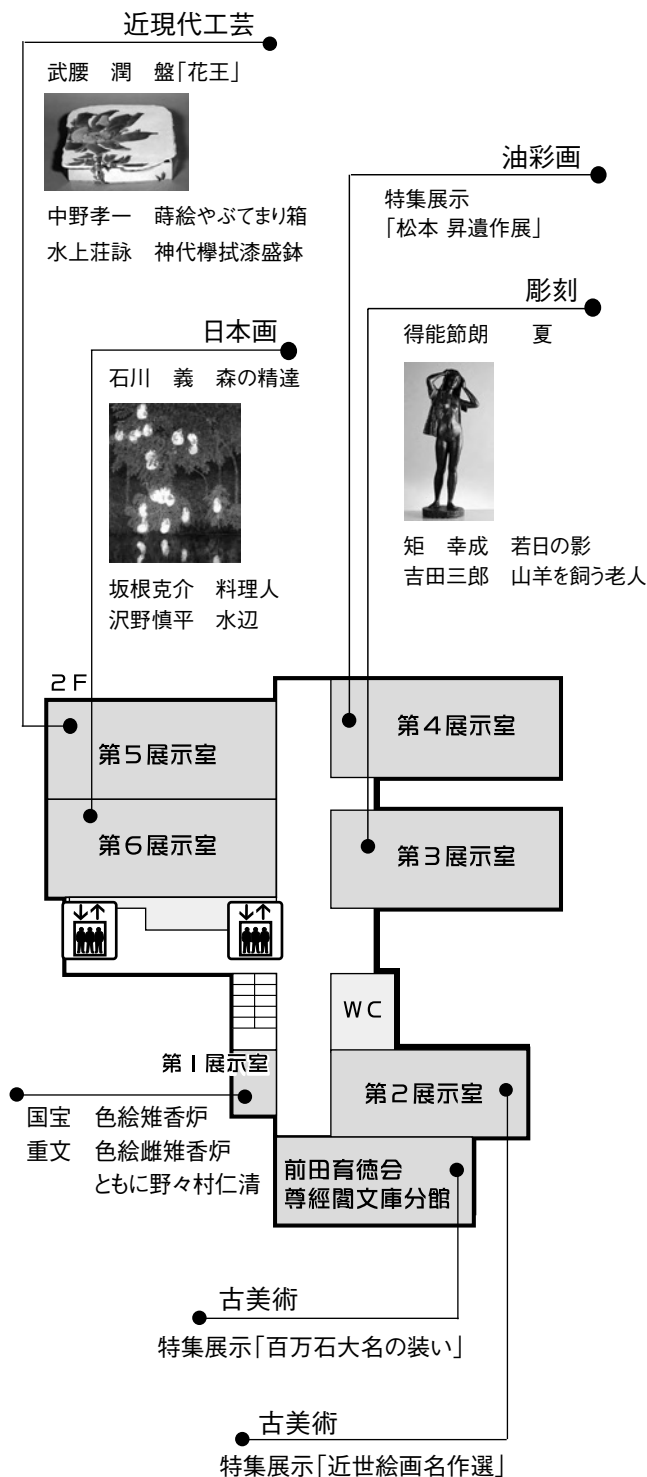
# 石川県水墨画協会公募展

6月25日(金)～6月29日(火)会期中無休

## コレクション展示

# 主な展示作品

6月17日(木)～7月19日(月・祝)会期中無休



# 参加者募集！

# 今年度のキッズ☆プログラム

## 夏休み体験講座

夏休みに美術を楽しんでいただく小学生親子対象のプログラムです。毎年たくさんご応募いただいている制作体験の他、昨年ご好評いただいたバックヤードツアー。そして、新たに夏休み親子で楽しむ美術館の展示「ふしぎがいっぱい」を鑑賞するプログラムも行います。

制作体験、バックヤード体験ツアーは、申し込みが必要です。(応募方法は左記)

## 制作体験

親子で共に制作できる楽しいひとときを過ごしてみませんか？作品完成後は、広坂別館に展示します。参加費は、実費として千円程度を予定しています。

### ◆一・二年対象

「チヨキチヨキ、ぺたぺた色糸アート」

・八月二日(月) 一年生/一〇時～

・二年生/一三時三〇分～

・定員/各回十五組三十名

毛糸などの色糸で、はり絵アートを楽しみます。

### ◆三・四年対象

「見て見てキラキラ七宝焼」

・八月四日(水) 一三時三〇分～

・定員/十五組三十名

出来上がりがワクワク楽しい七宝焼です。

### ◆五・六年対象

「日本画に挑戦！」

・七月三十日(金) 一三時三〇分～

・定員/十五組三十名

色紙に日本画絵の具で制作します。

申し込み締め切り 七月九日(金)

## バックヤード体験ツアー

### ◆「うらがわ美術館」

・八月二十日(金) 一三時三〇分～

・定員/四年生以上十組二十名

普段入ることのできない、収蔵庫、写真室、書庫、映写室など美術館のバックヤード(裏側)を探検！

申し込み締め切り 八月六日(金)

## 体験講座お申し込み方法(往復はがき)

### 【往信の宛名面】

〒九二〇〇九六三 金沢市出羽町二一

石川県立美術館 普及課宛

### 【往信の文面】

参加希望する講座名、保護者・児童

の氏名、学年、住所、電話番号

【返信の宛名面】

住所、お名前

【返信の文面】

何も書かないでください

\*定員を上回った場合は抽選となり、結果は返信はがきでお知らせいたします。

## 夏休み鑑賞講座

### ◆「キッズ★ふしぎハンター」

・八月八日(日) 一三時三〇分～

・定員、事前申し込みなし。直接、美術館講義室にお集まりください。

美術館にあるふしぎな作品を集めた特集展示「ふしぎがいっぱい」。それぞれの作品のふしぎについて、みんなで

いっぱいお話をして鑑賞してみましよう。

## 九月以降のキッズ☆プログラム

展示室の作品を楽しく鑑賞する小学生親子対象のキッズプログラムをご用意いたしました。申し込み・参加費は必要ありません。一三時三〇分までに、美術館・講義室にお越しください。

### ◆「石川の工芸物語」

・九月二十六日(日)

工芸のさかんな石川県。さかんになった秘密を、前田のお殿様の時代からさぐる。

### ◆「アートゲーム大作戦！」

・十一月二十一日(日)

展示作品でゲームを楽しみます。知力と感性を磨きます。

### ◆「3Dワークショップ」

彫刻をつかまえよう！

・一月二十三日(日)

見る・動く・感じる・・・五感を使って彫刻を味わおう。

### ◆「お殿様の文房具」

・三月六日(日)

お殿様たちの文房具って？自分たちのものと比べて鑑賞してみよう。



# 鑑賞ファイル「六十二間星兜」

## 「六十二間」てなんの数？

通常、兜の鉢部分は矧板（はぎいた）と呼ばれる金属の細長い板をつないで（矧合わせて）構成されています。「六十二間星兜」などの名前は、この矧板の数を表しています。矧板同士は矧留鉾で留められており、この鉾を星と呼び、星のある兜を星兜といいます。鉾をたたいて潰したり、平らな鉾を用いて星のない兜も作られました。これは筋兜といい、南北朝時代に多く作られました。

安土桃山時代に入ると間数も三十二間、六十二間など多いものが流れます。激化する戦闘に対応するのに、矧板を半分重ね合わせて兜を堅牢にしたためです。十七世紀中頃発祥の加賀具足においては矧合わせ枚数の少ないものや、様々な形をした変形兜が多いことが知られています。

また江戸時代中期以降には、百二十間、百六十間などの兜も作られました。実戦のための堅牢性というよりは、甲冑師の技量を示すためといえるでしょう。しかし加賀具足の実用性について北陸大学の長谷川孝徳教授は論文「加賀具足にみる技とデザイン」のなかで六代藩主前田吉徳のお召料製作についての記録を通し、「加賀具足は使用するにあたり都合がないように考慮した上で、装飾を施したものであり、決して実用性を無視した儀礼的な装飾甲冑ではなかった」と指摘しています。

※加賀具足についての詳細は六月二十日の長谷川孝徳教授の講演「加賀具足の技と意匠」を楽しみにしたいと思います。



六十二間星兜 信家 作

## 加賀百万石の文化講座

前田育徳会や尊經閣文庫を広く知っていただくために、昨年度開催し大変好評を博しました「加賀百万石の文化講座」。本年も六月二十日の「加賀具足の技と意匠」長谷川孝徳氏（北陸大学教授）を皮切りに開講いたします。事前の申し込み等は不要です。皆様の参加をお待ちしております。  
聴講無料 午後一時三〇分から 美術館ホールにて

## 六月の行事

■土曜講座	午後一時三〇分から	美術館講義室	聴講無料
六月十二日	石川の仏画	谷口普及課長	
六月十九日	早田楽斎と石川明治画壇	二木担当課長	
六月二十六日	戦後具象彫刻 昭和三十年代までの金沢を中心に	宮学芸第一課長	
■加賀百万石文化講座	午後一時三〇分から	美術館ホール	聴講無料
六月二十日（日）	加賀具足の技と意匠 長谷川孝徳氏（北陸大学教授）		
■ビデオ上映会	午後一時三〇分から	美術館ホール	入場無料
六月六日（日）	日本の美5 水平と垂直（二三分） 日本の美6 草のころ —真、行、草より（二九分）		





今回紹介する作品は、今の季節に相応しい杜若の茶碗です。杜若と言えば尾形光琳の屏風が有名ですが、この作品はその弟乾山の作です。丁寧な轆轤成形された胴部をわずかに絞り、口縁部はわずかに広がりを持つ半筒形の茶碗で、染付と錆絵で杜若をおおらかな筆使いで描かれ、口縁部には錆絵で口紅が施されるなど、日本画のたらし込み技法のような表現に味わいがあります。全体に透明釉が施され、高台外側まで流れ、高台畳付と高台内は露胎となっています。なお、高台脇に「乾山」銘が記されて、高台は丁寧に削り出されています。

内箱蓋表に「乾山／茶碗／尚古斎（花押）」、外箱蓋表に「杜若茶碗／乾山作共箱」の墨書があります。

尾形乾山は、東福門院和子の御用を務めた具服商雁金屋・尾形宗謙の三男として生まれ、絵は兄光琳に、陶法は野々村仁清に学んだと伝えられ、最初に窯を開いた鳴滝時代のものに優品が多く、兄光琳との合作にも趣きがあります。茶の湯は上層町衆の嗜みの一つであり、乾山は兄とともに、表千家五代随流斎や藤村庸軒に師事したと言われており、そうした茶の湯の美意識が、用の美に即した乾山の作陶の魅力といえましょう。兼六園の杜若とともにお楽しみください。（第二展示室で開催の「茶道美術名品展」に展示中です。）



定価一冊二八〇〇円

待望の「名品図録」完成  
昭和六十三年に発刊した「石川県立美術館名品図録」を大幅に改訂しました。二十二年ぶりの発刊となりました。前回の作品に、新たに収蔵された作品を加え、三十一点を掲載いたしました。ぜひお手元においていただき、美術館と共々活用いただきたい一冊です。

ミュージアム  
ショップ通信

ご利用案内

コレクション展観覧料

- 一般 350円 (280円)
- 大学生 280円 (220円)
- 高校生以下 無料
- ※ ( ) 内は団体料金

今月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00

石川県立美術館だより 第320号  
2010年6月1日発行〈毎月発行〉

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580 Fax:076(224)9550  
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

6月の休館日は  
14日(月)～16日(水)です